

令和2年度 学校自己評価システムシート（埼玉県立川口特別支援学校）

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の主体的な学びと人との関わりを大切にしている学校 家庭や地域との連携を大切に、一人一人の豊かな生活を支える学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒のニーズに応じた授業づくりと12年間を見通した教育課程づくりを踏まえ、小中学部単独校としての教育課程づくりを進める。 家庭・地域・専門家・福祉関係者との連携を密にし、児童生徒の将来像を見据え、校内・校外支援とキャリア教育・進路指導の充実を図る。 家庭・地域と連携して緊急時・災害時に備えるとともに、児童生徒数がピークになることを踏まえた安心安全な学校づくりを進める。 新「一人一人を大切にしている学校づくり宣言」の具体化を図り、発達と障害特性、生活年齢を踏まえ、一人一人の人権を尊重した教育活動を進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

*学校関係者 評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価（年月日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>発達と障害特性、生活年齢を踏まえ、12年間の成長と将来の地域社会での生活を見通し、一人一人のニーズに応じた授業づくりを進めている。12年間を見通した指導・支援と授業づくりを進める視点から「個別の指導計画」の様式を見直した。年次研修等を活用しながら授業研究を積極的に実施している。日々の教職員の話し合いと教職員間及び保護者との共通理解を大切に、一人一人のニーズ及び「資質・能力の三つの柱」を踏まえ、日々の授業や指導・支援を充実させる。</p> <p>学校教育目標の見直しに向け、学部ブロックで意見集約し、来年度を目指して改定作業に取り組んでいる。カリキュラムマネジメントの観点から、学部ブロックで学期ごとの実践の整理と「教育課程反省」を行い、発達と障害特性、生活年齢を踏まえた教育課程上の諸課題を整理・検討した。教育課程検討委員会で、新学習指導要領を踏まえた教育課程づくりに向けての課題整理と学部ブロック間の系統性等について検討した。12年間の系統性及び新学習指導要領を踏まえ、小中学部単独校に向けて、また学部ブロックの児童生徒増に対応した教育課程について、具体的な検討を進める。</p>	<p>児童生徒の一人一人のニーズに応じた授業づくりを進める。</p> <p>12年間を見通した小中学部単独校としての教育課程づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な教職員の話し合いと共通理解を大切にするとともに、年間を通して計画的に学部ブロック研修を実施する。年次研修を中心とした授業研究を行う。 外部講師と連携し、指導・支援の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 学部ブロックで生活年齢と発達段階を踏まえた授業研究や事例研究等を行う。 学部ブロック研修日を活用し、学部ブロックの企画委員、教育課程研修部が中心となり、教育課程の見直しを進める。教育課程検討委員会で学部ブロック間の系統性について調整・検討を行うとともに、2月の「教育課程まとめの会」で小中学部単独校としての教育課程について提案し、職員会議で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な教職員の話し合いと授業研究等を行い、「個別の指導計画」に基づく一人一人のニーズに応じた授業づくりと指導・支援の充実が図られたか。 アセスメントの方法・活用について理解を深め、保護者との共通理解をもとにした指導・支援ができたか。 <ul style="list-style-type: none"> 学部ブロック研修、教育課程検討委員会、「教育課程まとめの会」、職員会議等で教職員の共通理解を図りながら、新しい学校教育目標とそれに基づく学部目標を踏まえた小中学部単独校として新しい教育課程を確認することができたか。 			
2	<p>家庭と連携し、保護者と共通理解を図りながら、一人一人のニーズに応じた支援を進めている。児童生徒の障害特性や行動の理解とその支援について、専門職による指導・助言を取り入れて日々の教育実践に活かしている。小・中・高等学校からの支援要請に応じるとともに、川口地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会を実施している。小中学部単独校になることを踏まえ、児童生徒の将来像を見据えた校内・校外の支援を充実させる。福祉関係諸機関及び小・中・高等学校との連携体制を充実させ、新校との役割分担と校内体制について検討する。</p> <p>高等部では、地域の関係諸機関と連携して、本人・保護者のニーズに応じた丁寧なキャリア教育と進路指導を行い、将来の社会生活を見据えた進路実現を進めている。小中学部は、上級学部見学やキャリア教育の視点から教育実践等を行っている。12年間の系統的な支援を想定した「キャリア発達段階表」を「教育課程ファイル」に反映させた。学部ブロックでのキャリア教育を充実させるとともに、小中学部単独校になることを踏まえたキャリア教育と進路指導を進めるとともにそのための組織体制を確立する。</p>	<p>外部諸機関と連携し、児童生徒、保護者に寄り添った校内・校外の支援の充実を図る。</p> <p>地域・家庭との連携を基に、一人一人のニーズに応じたキャリア教育・進路指導を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との共通理解を進めながら、臨床心理士等の指導・助言を活かす。児童生徒理解を深め、指導に活かす。 諸機関と連携し、支援会議を行う。 諸機関との連携を深め、研修支援、教育相談とネットワークづくりを進める。川口地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会を実施する。 支援部、企画委員会が中心になり、小中学部単独校になることを踏まえた支援体制、教育・福祉等との連携のあり方、そのための組織体制について検討する。 <ul style="list-style-type: none"> 高等部は現場実習や校内実習を計画的に行うとともに進路指導について必要な事項を新校に引き継ぐ。 小中学部は「キャリア発達段階表」を教育活動に活かすとともに小中学部単独校になることを踏まえ教育実践と教育課程について検討を行う。 小中学部単独校になることを踏まえた福祉事業所合同説明会、施設見学会等のあり方、進路情報を本人・保護者に広める工夫、教育・福祉関係諸機関との連携等について、進路指導部と企画委員会が中心になって検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との共通理解を深めることができたか。 アセスメントや指導助言を日々の授業や指導・支援に活かされたか。 外部専門職と諸機関、地域ネットワークを活かし、川口地区の特別支援教育の連携体制を充実させ、一人一人のニーズに応じた校内・校外支援が行われたか。 小中学部単独校になることを踏まえ、児童生徒の将来像を見据えた支援と組織の体制について整備できたか。 <ul style="list-style-type: none"> 「キャリア発達段階表」を活用した教職員間の話し合いが行えたか。 学部ブロックの教育実践との関連の中で、キャリア教育を充実させることができたか。 高等部の新校移転、本校の小中学部単独校に向けて、キャリア教育と進路指導に関して学部ブロックで話し合うとともに、進路指導部と企画委員会が中心になり、進めるための組織体制を整備できたか。 			
3	<p>年度当初に緊急時対応マニュアルを用いた研修を実施した。児童生徒の「情報交換会」を実施した。危険事例等についての「ヒヤリハット」報告をその都度行うとともに、前後期末にその内容をまとめ企画委員会で分析して、職員会議において教職員間で共通理解を図った。児童生徒数の大幅増と小中学部単独校になることを想定し、引き続き安全点検、安全対策を進めるとともに、事故防止と起きた場合の的確な初期対応が行えるよう、教職員の意識向上を図る。</p> <p>災害対策委員会を定期的に実施し、課題の整理と対策を行った。水害等も含めた大災害時対応や不審者対応等の校内体制の確立や関係機関との連携を進めるとともに、実践的な引き取り訓練や児童生徒の実態に応じた防災学習等を行う。福祉避難所の開設に関して川口市と情報交換を行い、教職員、保護者への必要な情報提供を行う。</p>	<p>児童生徒増に伴う事故防止を徹底する。</p> <p>家庭・地域と連携した緊急時・災害時対策を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 危険事例等の情報を教職員間で共有するとともに、発生してしまった事故については丁寧に分析し、再発を防止する。日常的に安心安全にむけた教育環境整備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 定期的に災害対策委員会を行う。 保護者の意見を踏まえ、大規模災害等を想定した実践的な防災学習や避難訓練・引き取り訓練を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険事例を共有するとともに、日常的に安心安全のための教育環境の整備が行えたか。 <ul style="list-style-type: none"> 災害対策委員会を定期的に実施し、災害対策の充実を図ることができたか。実践的な防災学習が行えたか。 福祉避難所の開設に関して必要な情報交換と情報提供が行えたか。 			
4	<p>「一人一人を大切にしている学校づくり宣言」の改訂に向けて学部ブロックで討議を重ね、意見集約を行った。年度当初に新しい「宣言」を確定させる予定である。人権・体罰に関するチェックシートに基づく学部ブロックの話し合い、全校研修等を実施した。教職員の意識を高め、その成果を日々の教育実践に活かす。発達と障害特性、生活年齢を踏まえ、合理的配慮と人権尊重を基本に、教職員の共通理解とチームワークを大切に教育活動を進める。</p>	<p>人権尊重に関する教職員の意識を高め、日々の教育活動に活かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新しい「宣言」の共通理解と人権や合理的配慮、障害特性に応じた指導・支援を進めるための全校研修を行う。 人権・体罰に関する保護者アンケートを実施する。チェックシートに基づく学部ブロックで話し合いを行う。 日々の教育実践を振り返り、児童生徒や保護者との信頼関係と共通理解を大切に、適切な指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を通して、教職員一人一人が人権や合理的配慮、障害特性についての理解を深め、学校全体として意識を高め、体罰・虐待のない指導が徹底できたか。 学部ブロック、学級等の単位で日々の教育実践を振り返り、人権を大切にしている意識づくりと適切な教育活動の具体化を図ることができたか。 			

